



農業の魅力、食の大切さを学ぶ 小学校サラダ玉ねぎ収穫体験

5月13日(木)、小学4・5年生57人が津奈木保育園近くの畑でサラダ玉ねぎの収穫を体験しました。これは、町が進める「つなぎ FARM」の取り組みの一つで、児童に農業の素晴らしさや食の大切さを学んでもらおうと、JA あしきた津奈木青壮年部と協力して行っています。児童は青壮年部の指導を受けながら玉ねぎの根をハサミで切り取り、コンテナで運んでいきました。

昨年12月に耕作放棄地だった畑に現在の4・5年生が苗を植え付け。同支部の若手農家を中心に、農業や化学肥料をできるだけ抑えて育てたもので、約3トンの収穫できたそうです。楠本大心さん(丸岡)は「津奈木のサラダ玉ねぎはおいしい。収穫作業も楽しかった」と話していました。

収穫したサラダ玉ねぎはインターネット通販サイト「豊洲市場ドットコム」で販売し、売り上げの一部を小学校へ寄付。6月の学校給食にも使用される予定です。

↓ハサミを使って丁寧に収穫する児童



↑自分たちで植えた玉ねぎを持ち上げ笑顔



↑大量の玉ねぎをコンテナで運んでいきます

思いやりの心を育てよう 人権の花運動

花を育てることで命の大切さや思いやりの心を育む人権の花運動が4月30日(金)、津奈木小学校で行われました。アサガオやヒマワリの種、プランター、肥料などが人権擁護委員から同校児童に贈呈。代表して伊藤海迅さん(日添)と楠本愛羅さん(丸岡)が「みんなで協力して育てます」とお礼の言葉を述べました。



↑贈呈された種はみんなで大事に育てます

地域活性化目指し連携協定 日本郵便との包括連携協定合同締結式

県南18市町村と日本郵便は5月12日(木)、地域活性化などで協力する包括連携協定を結びました。豪雨で大きな被害が出た球磨川流域の農産物を活用したふるさと小包の開発などに取り組みます。中村八代市長が「お互いに連携、協力しながら、地域のニーズに合った住民サービスの向上を図りたい」と述べました。

↓お互いの連携のもと、地域の課題に対応していきます



↓離乳食「あんしんまんま」を手にする小野さんとその家族



↑スライドを使って、商品に対する思いなどを説明



↑自然栽培の米、水、野菜で作った離乳食「あんしんまんま」

本との親しみを持って 読書表彰・おはなし会

4月25日(日)、つなぎ文化センターで図書館貸出ベストテンの表彰とおはなし会が開かれました。これは、1年間(昨年4月～ことし3月)に図書館で多く本を借りた人を表彰するもの。1位は松崎琴音さん(大泊)の193冊。表彰式後は図書館職員による絵本や紙芝居などの読み聞かせがあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。



↑表彰を受けた子どもたち



自然栽培の離乳食を製品化 離乳食「あんしんまんま」開発

町地域おこし協力隊の小野孝弘さん(内野)が、自然栽培で作った米や野菜を使った離乳食を商品化しました。4月19日(月)、町役場応接室で山田町長などに商品に対する思いやコンセプトを説明しました。離乳食「あんしんまんま」はおかゆや季節の野菜を使った野菜ペーストを食べやすいように小分け。令和2年7月豪雨災害で被害を受けた田んぼで栽培した米や新型コロナウイルスの影響で出荷先を失った野菜を使っていて、地域を元気づけたいという思いが込められています。

小野さんは「共働りする親の味方になると思う。協力隊の任期は来年2月までなので、定住に向けて農業と販売を軌道に乗せたい」と話していました。

離乳食は1パック80㍑で賞味期限は約1年。おかゆの濃さを変えて5～18か月の乳幼児がおいしく食べられるようになっています。つなぎ百貨堂やネットショップなどで購入できます。

↓柑橘を丸ごと使ったジュースを販売



オーガニックをもっと身近に つなぎ FARM オーガニックマルシェ

4月25日(日)、物産ギャラリーグリーンゲイトイベント広場で、つなぎ FARM オーガニックマルシェが開かれました。新鮮な野菜、加工品、テイクアウトの食事、柑橘を丸ごと使ったジュースなど16のブースが出店。子どもからお年寄りまで幅広い年代が詰めかけ、買い物を楽しんでいました。次回開催については17ページに掲載しています。